

2026年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：組織統治論特論		専修：経営専修
担当教員名：矢口 義教		科目区分：基幹科目
<p>授業科目概要：</p> <p>企業を中心とする組織は、適正にガバナンス（統治）されてステークホルダー（利害関係者）に対して責任を果たすことができる。このことを踏まえて、本授業では、企業（組織）が統治されて健全な社会的責任を果たすことで、社会・環境の持続可能性（サステナビリティ）に貢献する視点を学んでいくことにする。</p> <p>企業が果たすべき社会的責任（CSR, Corporate Social Responsibility）を中核に据えて、ESG（Environment, Social, Governance; 環境・社会・ガバナンス）という現代的潮流を押さえていく。また、このような企業活動が、SDGs（Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標）にもどのように貢献するのかも検討する。本授業では、企業と社会との関係性を理解するとともに、ガバナンスの果たす意味と意義について自身の見解を養う。</p>		
<p>履修上の留意事項：</p> <p>留意事項はとくにないが、基本的に毎回の授業に出席していただき、課題の提出などを遅滞なく行うことが必要になる。また、自身の研究テーマとの関連性もつねに意識するとともに、アンテナを高くして組織統治に対するニュースにもつねに目配りをするようにしてもらいたい。</p>		
教科書・参考書（参考文献）		
<p>書名：『ESG経営の展開—サステナビリティの実現へ向けた企業行動の変容—』（教科書）</p> <p>著者／編者：佐久間信夫・矢口義教・山田雅俊 編著</p> <p>出版社：同文館出版</p> <p>出版年：2025年</p>	<p>書名：『地域を支え、地域を守る責任経営—CSR・SDGs時代における中小企業経営と事業承継—』（参考書）</p> <p>著者／編者：矢口義教著</p> <p>出版社：創成社</p> <p>出版年：2023年</p>	
<p>書名：『入門 企業論』（参考書）</p> <p>著者／編者：佐久間信夫・井上善博・矢口 義教編著</p> <p>出版社：法律文化社</p> <p>出版年：2024年</p>	<p>書名：『環境経営要論 [第2版]』（参考書）</p> <p>著者／編者：野村佐智代・山田雅俊・佐久間信夫編著</p> <p>出版社：創成社</p> <p>出版年：2025年</p>	
<p>書名：『震災と企業の社会性・CSR—東日本大震災における企業活動とCSR—』（参考書）</p> <p>著者／編者：矢口義教著</p> <p>出版社：創成社</p> <p>出版年：2014年</p>	<p>書名：『経営者の役割』（参考書）</p> <p>著者／編者：C・I・バーナード著</p> <p>出版社：ダイヤモンド社</p> <p>出版年：1968年</p>	
ディプロマ・ポリシー（DP）との関係		
DP1	DP2	DP3
	○	○
<p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織のガバナンス課題の正確な理解と現状の分析ができるようになる。 ・批判的な視点から、企業ガバナンスの文献を読み込めるようになる。 ・企業と経営環境（ステークホルダー）との観点から、企業の果たす役割について理解するとともに、自身の意見を述べられるようになる。 		

<p>評価方法及び評価基準：</p> <p>成績評価は、60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとする4段階とし、C以上の評価に単位を与える。評価のポイントは下記の通りである。</p> <p>講義中に行われる発表（3回予定）と質問・発言から総合的に評価する。発表75点（3回×25点）および質問・発言（25点）となる。発表（1回25点）では、内容要約の適切性（10点）、文書表現（5点）、意見や感想の独自性（10点）の観点で評価する。質問・発言に関しては、発言回数（10点）、独自・ユニークな視点（10点）、授業との関連性（5点）で評価する。期末テストや期末レポートは行わず、上記の平常点で評価する。</p>	
<p>授業の方法：</p> <p>授業進行では、まず教員が、CSR、コーポレート・ガバナンス、ESGなどに関して講義を行い基本的な理解を深める。その後、テキスト（『ESG経営の展開—サステナビリティの実現へ向けた企業行動の変容—』）を輪読・発表していく。その際には、クリティカル・シンキング（批判的思考）の視点で読み込むことで、課題や問題を認識できる能力も同時に養うことにする。</p>	
第1回	<p>テーマ：企業と組織の概念と役割</p> <p>内容：漠然とした概念である企業を整理するとともに、バーナードの理論に基づいて組織を説明する。また、現代社会における企業の有する役割についても言及する。</p> <p>教科書／参考書：なし</p>
第2回	<p>テーマ：経営管理論と企業論</p> <p>内容：経営管理論が主として企業の「営利性」を主眼としているのに対して、企業論は「社会性」に焦点を当てており、コーポレート・ガバナンスの議論は後者に位置づくことを説明する。</p> <p>教科書／参考書：なし</p>
第3回	<p>テーマ：組織統治に関連する概念や用語の解説（1）</p> <p>内容：コーポレート・ガバナンスとCSRに関して、歴史的な背景を踏まえて基礎的かつ包括的な説明を行う。</p> <p>教科書／参考書：なし</p>
第4回	<p>テーマ：組織統治に関連する概念や用語の解説（2）</p> <p>内容：ESGやSDGsなど近年の組織統治に関する事項に加えて、これに関連する社会・環境課題についての説明を行う。</p> <p>教科書／参考書：なし</p>
第5回	<p>テーマ：CSRの理論と展開</p> <p>内容：経営者の社会的責任から、組織としてCSRの制度化、さらにはCSRと経営戦略の融合に関して解説する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第1章</p>
第6回	<p>テーマ：CSRからESGへ</p> <p>内容：CSRという企業の社会的責任に関する事項が、近年ではESGへと変遷している。しかし、その本質はCSRと変わらないことも合わせて示す。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第2章</p>
第7回	<p>テーマ：日本のコーポレート・ガバナンスの展開</p> <p>内容：日本におけるガバナンス改革への取り組みを、近年のコード策定に見られるソフトローの観点から検討する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第3章</p>
第8回	<p>テーマ：アメリカのコーポレート・ガバナンスの展開</p> <p>内容：株主利益に焦点を置く企業のガバナンス体制や、エンロン事件やリーマンショックを踏まえた近年の動向を捉える。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第4章</p>
第9回	<p>テーマ：イギリスのコーポレート・ガバナンスの展開</p> <p>内容：ソフトローに基づくガバナンス改革の背景について、各委員会の報告書を中心に独自の取り組みを見ていく。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第5章</p>

第10回	<p>テーマ：サステナビリティ・ガバナンスの動向</p> <p>内 容：営利性だけでなく、持続可能性に貢献するコーポレート・ガバナンスとその報告の在り様について検討する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第6章</p>
第11回	<p>テーマ：ESG投資の現状と課題</p> <p>内 容：収益だけでなく、環境や社会、さらにはガバナンスを踏まえた機関投資家の投資行動について、背景と現状を検討する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第7章</p>
第12回	<p>テーマ：企業におけるダイバーシティ</p> <p>内 容：多様性を受容し、管理することが競争力の向上だけでなく、企業の健全な発展やガバナンスにも有効であることを見る。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第8章</p>
第13回	<p>テーマ：ビジネスにおける人権問題と人的資本経営</p> <p>内 容：サプライチェーンも含めて人権問題を管理することが企業のリスク回避につながり、人的資本経営を充実させることにもなることを確認する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第9章</p>
第14回	<p>テーマ：国際的な環境規制の展開</p> <p>内 容：EUを中心とする環境規制を概観し、企業として対応することが持続可能性への責任だけでなく、ビジネスの面でも重要になることを確認する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第11章</p>
第15回	<p>テーマ：環境経営戦略の考え方</p> <p>内 容：環境問題を経営戦略やガバナンスに組み込み、環境と企業利益を両立させる方策について、トリプル・ボトム・ライン（経済・社会・環境）の観点から検討する。</p> <p>教科書／参考書：『ESG経営の展開』第12章・第13章・第14章</p>